

わたしたちとともに、わたしたちのために行動を

エチオピアとウガンダで避難生活を送る思春期の女の子と協議したプログラム設計

2021年4月

本書は www.plan-international.org からもオンラインで入手可能です。
初出：2021年 - 文と写真© Plan International

表紙写真© Plan International / Anne Ackermann

無断複写・転載を禁じます。本書のいかなる部分も、プラン・インターナショナルの事前の許可なく、電子的、機械的、複写的、その他いかなる形式、手段によっても、複製または転送することを禁じます。

推奨引用：Plan International (2021). Act With Us and For Us: Consultations with adolescent girls and young mothers in displaced settings in Ethiopia and Uganda, United Kingdom: Plan International

プランの「南スーダン難民とホストコミュニティのための若者雇用」プロジェクトと協議会は、オーストラリアNGO協力プログラムを通じてオーストラリア政府の支援を受けている。

本書と思春期プログラミングツールキットは、スウェーデン国際開発協力庁（Sida） の共同資金援助を受けている。内容に関する責任はすべてプランにある。Sida は必ずしも表明された見解や解釈を共有していない。

「若い母親であることは、大変なことです。私たちは重い責任を背負っています。それなのに私たちには物事を決める自由がありません。」


WEL COME TO
CHILD FRIENDLY SPACE
ENTERANCE

内容

調査結果と提言の要約 6

背景：エチオピアとウガンダの南スーダン難民 8

思春期プログラムツールキット 10

思春期の女の子や若い母親たちとの協議 11

調査結果：避難生活を送る思春期の女の子と若い母親について学んだこと 13
調査結果1：移住は早すぎる結婚のリスクを高める 13
調査結果2：既婚の女の子と若い母親は、より多くのリスクに直面している 16
調査結果3：思春期の女の子と若い母親は、教育を受け、収入を得たいと望んでいる 17
調査結果4：若い母親は自分と子どもの健康を心配している 18
思春期の女の子と若い母親にとっての優先事項 19
優先事項1：教育、仕事、健康と保護を維持するための支援 19
優先事項2：家族およびコミュニティとの協力 19
優先事項3：サービス提供の改善 20

優先事項を実践する：女の子中心のプログラム 21

女の子中心の協議とプログラム設計から学んだ教訓 22

避難生活を送る思春期の女の子や若い母親たちとの協議：調査結果と提言の要約

女の子を中心とした画期的な調査方法

プランの思春期プログラム作成ツールキットは、南スーダン難民である思春期の女の子と若い母親たちおよび、エチオピアとウガンダの受け入れコミュニティとの協議とプログラムの設計をサポートするために使われた。このツールキットは、思春期の女の子自身が主導する参加型の協議を支援する、思春期の若者向けのさまざまなツールを提供している。

協議では、質的データに重点を置いた混合手法が用いられ、「**ビジョニング**」が採用された。「ビジョニング」とはグループでの協議活動であり、女の子が未来像、直接的で長期的なニーズや優先事項、そして未来像を実現するための既存の障壁やリスクを明らかにするのに役立つ。年長の思春期の女の子とコミュニティの指導者が、「ビジョニング」の共同進行役として訓練を受け、合計255人の思春期の女の子と若い母親が協議に参加した。

主な調査結果：避難生活を送る思春期の女の子と若い母親について学んだこと

協議の中で、思春期の女の子と若い母親は以下の点を強調した。

移住は早すぎる結婚のリスクを高める

思春期の女の子によると、早すぎる結婚の割合が上昇している原因として、治安の悪さや移住だけではなく、避難する家庭や受け入れコミュニティにかかる経済的負担にもある。このことは、女の子自身の結婚に対する考えにも影響を及ぼしている。

既婚の女の子と若い母親は、より多くのリスクに直面している

既婚の女の子や若い母親は、さまざまな困難に直面している。学校教育を受け、仕事に就く機会を逃すだけでなく、社会的孤立や、親、夫、義理の家族の手による深刻な暴力、虐待、ネグレクト、搾取に直面することも多い。シングルマザーや性暴力のサバイバーである女の子は、更にスティグマや差別にさらされる。

思春期の女の子や若い母親は、教育を受け、収入を得たいと望んでいる

女の子は、学校に行き、仕事に就くことに強い意欲を持っている。しかし、これらの目標を達成するまでに、いくつかの課題に直面する。女子教育は軽視されていて、学校は安全な場所ではない。ほとんどの女の子は途中で学校をやめてしまい、その後の人生で自分の収入を得ることもできない。難民である既婚の女の子や若い母親は、非常に大きな社会的、文化的、法的障壁に直面しており、それが経済的エンパワーメントを阻んでいる。

若い母親は自分と子どもの健康を心配している

思春期の女の子によると、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する情報や、物資、サービスの不足が、女の子の中途退学、危険な性行動、望まない妊娠のリスクを高めているということである。難民コミュニティにいる女の子や若い母親は、健康上の不安にさらされながらも、自分と幼い子どものための医療にアクセスすることが容易ではない状況にある。



思春期の女の子と若い母親にとっての優先事項

思春期の女の子と若い母親は、自身の目標を達成するためのリスクや障壁だけでなく、こうした障壁に対処するためにとるべき優先的な行動も特定した。その結果、プログラムにおける優先事項が以下の通り決定され、エチオピアとウガンダでの複数年にわたるプロジェクトに盛り込まれた。

教育、仕事、健康と保護を維持するための支援

- 思春期の若者が新しいスキルを身につけ、安全に過ごし、性と生殖に関する健康(SRH)を促進するのに役立つ情報
- 思春期の女の子のための一対一のカウンセリング
- ピアグループ活動
- 職業訓練を含む教育へのアクセス
- 収入を得る仕事へのアクセス
- 生理用品と情報の入手

家庭やコミュニティとの協力

- ジェンダー平等と女子教育を促進するための保護者との関わり
- 保護者のための情報とサポート
- 家庭生活への支援、特にシングルマザーへの支援
- 男女それぞれのゲートキーパー(訳注:組織や境界を越えて、その内部と外部をつなぎ合わせる人)と関わり、コミュニティ内に変化をもたらすこと

サービス提供の改善

- すべての思春期の女の子、特に難民や若い母親とその子どもが、医療を安全に受けられるようにすること
- 保護に関する懸念を通報するための安全な連絡手段の確保
- 教師、学校、組織と連携し、思春期の若者が教育を継続または復学するための奨学金制度を推進すること

背景：エチオピアとウガンダの南スーダン難民

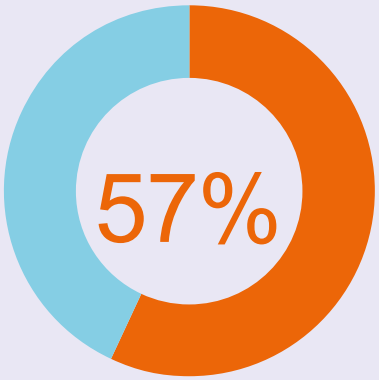
南スーダンの紛争は5年以上続き、400万人（南スーダン人の3人に1人）が移住し、800万人以上の人々が人道支援を必要としているi。約230万人が近隣諸国で保護を求めているが、その大半は女性と子どもである。思春期の女の子や若い母親との協議は、南スーダン難民の半数以上（58%）を受け入れている隣国エチオピアとウガンダの難民居住地で行われた。

南スーダン

400万人

の避難民のうち、半数以上（240万人）が18歳未満である

南スーダン国内の人口の



は18歳未満であるii



約

200万人

の女性と女の子がジェンダーに基づく暴力(GBV)の危険にさらされているiii

南スーダンの女の子の

半数

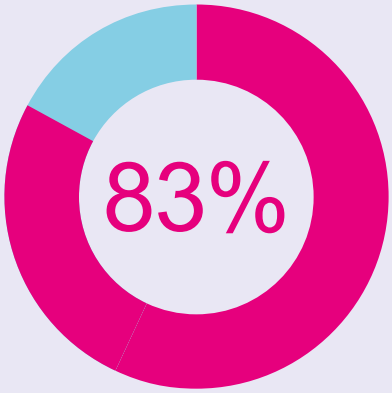
が18歳までに結婚すると推定されているiv



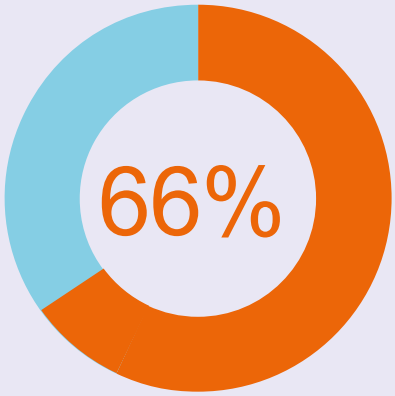
南スーダンからの難民



約
230万人
が近隣諸国で保護を求めている[v]



の南スーダン難民は女性と子どもである[vi]



の南スーダン難民が18歳未満である[vii]



36万人超
の南スーダン難民がエチオピアに居住している[x]



約
90万人
の南スーダン難民がウガンダに居住している[viii]

思春期プログラム ツールキット



思春期プログラムツールキットは、思春期の若者たちの強い意欲、エネルギー、革新性、 能力、そして女の子の主体性をもとに作成された。このツールキットは、思春期の若者たちが危機的な状況においても、学び、導き、決断し、成長することを支援する指針と手段を提案する。

このツールキットは、思春期対応プログラムの作成を推し進めるものであり、女の子や危機的状況にある思春期の若者に特に配慮しつつ、彼ら自身が特定したジェンダーや年齢特有の多様なニーズ、優先事項、能力などに応じた行動に留意して設計し、実施するものである。

ツールキットは4つのパートから成っている。

1. 危機的状況にある思春期の若者に投資すべき**理由**。
2. 危機的状況において、思春期の若者が学び、導き、決断し、成長することを支援するための**変化の理論**。
3. 成果のイメージと主な支援方法を提案する**プログラムの枠組み**。
4. 人道支援活動において、危機的状況における思春期の若者とともに/のためのプログラムを作成するための**段階的な指針**であり、思春期の女の子に手を差し伸べ、支援するための13の実践的ツールと考慮すべき重要事項を含む。

2019年10月～2020年1月にかけて、エチオピアとウガンダで、ツールキットの手引きとツールを使い、新しい思春期プログラムの設計のための情報収集を具体的な目的として、南スーダンの思春期の女の子と若い母親、そしてエチオピアとウガンダのホストコミュニティとの協議を行った。

危機的状況にある思春期の若者とともに/のためのプランの取り組み

このツールキットは、危機的な状況における思春期の若者と女の子からの数多くの提言と、人道支援者が以下のようなことを行うべきであると示す根拠に基づいて作成された。

- **思春期の若者と女の子を活動の中心に置き**、活動の原動力となるよう呼びかけ、彼女たちの参加を促しリーダーシップを育成する。
- **女の子に特有のリスクや障壁に対処**すべく、男の子や男性に働きかけ、女の子や女性に対するジェンダー不平等、差別、暴力の解消に取り組む。
- 思春期の若者のための活動を向上させるために、**あらゆるレベル**で、家族やコミュニティ、地域の権力者、サービス提供者、責務履行者、人道支援者と協力する。
- 保護、教育、SRHR、経済的エンパワーメントの支援を網羅した、**計画的に多様なプログラムを**作成し、思春期の若者や女の子のニーズと能力に適したものを、状況に応じて**提供する**。.

思春期の女の子や若い母親たちとの協議

協議では、思春期の女の子（10～19歳）と若い母親（14～24歳）が、移住が彼女たちに与える特有の影響をどのように理解しているかを探る。この協議によって彼女たちは、自分にとって切実なニーズと将来の優先事項について声を上げることができる。協議は主に2つの質問によって進められた：

- **避難生活を送る思春期の女の子や若い母親にとっての主なリスクファクターや脆弱性は何か**
- **思春期の女の子や若い母親にとって、当面のニーズと将来の優先事項としてどんなことが考えられるか**

調査方法

協議は、プランのCentre of Excellence for Girls in Displaced Settings[x]の支援を受けて、エチオピアとウガンダのプラン・インターナショナルが実施した。協議は、エチオピアのガンベラにある4カ所と、ウガンダの西ナイルにある2カ所にわたる、難民居住区とホストコミュニティで行われた。

協議では、質的データに重点を置いた混合手法が用いられた。協議は、すべての場所で、10～12人程度の参加者からなる男女別のグループを対象に、**ビジョニング**の手法を用いて行われた。グループは10～14歳の思春期の女の子、15～19歳の思春期の女の子、20～24歳のユース女性と年齢別で作られ、合計255人が協議に参加した。

さらに、フォーカス・グループ・ディスカッションを通じて、思春期の女の子を持つ70人の保護者の意見を聞いた。

思春期の男の子やユース男性を含む10～24歳の若い世代を対象として個別に、量的世帯調査ツール「**思春期プロファイル**」を実施し、協議で得られた知見を相互参照した。Kobo Collect を使用し、エチオピア及びウガンダで、総計416件の調査が実施された。

思春期評価のための枠組み

この枠組みによって、危機にある思春期の若者の状況について知る必要のある情報の一端が明らかになった。このツールは、どのような情報が入手可能で、何がまだ欠けているのかを特定し、協議のためのより具体的なテーマや質問を選択するためのチェックリストとして、机上調査の際に使用された。

思春期プロファイル

この世帯調査は、対象となるコミュニティの思春期の若者に関する基本的な人口統計データを収集するものである。このツールはデータの不足を埋めるのに有効であり、例えば就学状況、家庭、結婚の状況などに関連する初期の危険因子と保護因子を特定するのに役立つ。

ビジョニング演習

この質的な協議ツールは、思春期の女の子やユース女性との協議で使用された。ビジョニングは、女の子たちが未来像、直接的・長期的なニーズや優先事項、未来像を実現する際に障壁となることや、リスクを明らかにするのに役立つ。

これらのツールの詳細については、「思春期プログラミングツールキット」を参照のこと。

エチオピアとウガンダで合計416件の調査がKobo Collectを使って実施された。

協議は、思春期の女の子とユース女性の声を、ニーズ評価とプログラム設計の中心に据えるという方針で行われた。ウガンダでは、同じコミュニティに住む6人の年長の思春期の女の子がデータ収集者としてのトレーニングを受け、仲間とともに調査やビジョニングを行った。

セーフガーディングと倫理のプロトコルには、スタッフを含めた関係者全員のセーフガーディングポリシーおよび行動規範への署名、全協議参加者とその保護者からのインフォームド・コンセント、セーフガーディングリスク評価の実施、セーフガーディングに関する潜在的な懸念がある場合の照会メカニズム、協議における地域の保護担当者の配置、思春期の若者に理解しやすい協議ツールの設計、セーフガーディング、報告、照会手続きに関するデータ収集者の研修などが含まれる。



調査結果：
避難生活を送る思春期の女の子と若い母親たちについて学んだこと

エチオピアとウガンダで協議した思春期の女の子とユース女性は、異なる状況、文化的背景、そして避難生活の体験にもかかわらず、多くの共通点を持っていた。避難生活における思春期の女の子やユース女性の経験は、辛く苛烈なものである。同世代の男性と比べて、思春期の女の子やユース女性は、中途退学、家族離散、早すぎる結婚、10代の妊娠、就労の制限など、複数のリスクに直面する可能性が高い。なかでも既婚の女の子や若い母親は、特有の課題に直面している。彼女たちは社会的・経済的支援が限られている中で、重い負担を背負っていることが多い。

協議の中で、思春期の女の子や若い母親は、自分の将来を思い描き、自身や他人を支えようとする能力と意欲が非常に高いことを示した。それにもかかわらず頻繁に、目標を実現し、日常的なコミュニティ生活に参加し、自身の意思決定を行う機会を奪われている。

調査結果1：移住は早すぎる結婚のリスクを高める

南スーダンでは、思春期の女の子の50%が18歳までに結婚している(男の子はそれ以降で結婚する)。この割合はエチオピアでは更に高く、調査対象となった難民の女の子の76%以上が18歳未満で結婚している。ウガンダでは、公表されている早すぎる結婚率はもっと低かったが（調査対象の思春期の若者の25%）、ウガンダの現場スタッフは、ウガンダでは早すぎる結婚が違法であることから、実際にはもっと高いと思われることを指摘した。

「コミュニティでは、女の子は14歳で結婚するべきだと信じられています。」

思春期の女の子との協議では、ウガンダにいる南スーダン難民の女の子の多くが、結婚するために一度南スーダンに戻り、その後またウガンダに戻ってくるという話だった。南スーダンの女の子はまた、自身のコミュニティでは早すぎる結婚が常態化しており、移住によって18歳未満で結婚する女の子が増えるだけでなく、より低年齢で結婚することにもつながっていると強調した。

「結婚持参金は、必需品購入のため、借金を清算するため、あるいは女の子の兄弟の結婚費用を賄うために使われます。」

早すぎる結婚は、南スーダンでは既存の文化的風習であり、男女不平等が常態化しており、女の子の意思決定権が限られたものでしかないことにも要因がある[xi]。だが、思春期の女の子たちは、危機や移住の際には、早すぎる結婚によって家族が経済的に救済されることもあると指摘した。

エチオピアでは、食料配給が一家を維持するのに十分でない場合が多いこと、より高い結婚持参金を得るために（父親や兄弟など男性の）家族から幼いうちに結婚するよう強要される女の子がいることを、女の子は強調している。「若ければ若いほど、結婚持参金は高くなります。」結婚持参金は、必需品購入のため、借金を清算するため、あるいは女の子の兄弟の結婚費用をまかなうために使われる。

「家族の中の男性は、より高い結婚結納金を得るために、女の子に早すぎる結婚を強いるのです」

早すぎる結婚は、全体的な治安状況とも強く関連している。一部の家庭では、安全保障上のリスクを認識し、親が「レイプされないように」娘を若いうちに結婚させようとする。難民コミュニティでもホストコミュニティでも、レイプを含む性暴力を経験した女の子は、スティグマを避けるためや家族の評判を「守る」ために、しばしば加害者と結婚させられると、女の子は指摘している。

社会的・経済的な要因とは別に、難民やホストコミュニティにいる思春期の女の子は、仲間からの影響、結婚生活の理想化、親の指導の欠如、教育の重要性の軽視なども、早すぎる結婚のリスクを高める主な要因として強調した。女の子の説明によると、結婚とは、自身の家族の貧困や虐待から逃れるための手段だと考える女の子もいるが、嫁ぎ先で夫や義理の家族による暴力、虐待、ネグレクト、搾取を経験することも多いという。

早すぎる結婚は10代の妊娠と強く関連している。15～19歳の女性1,000人あたりの出産数が158人である南スーダンは、世界で最も思春期の妊娠率が高い国のひとつである[xii]。本調査の調査データでも同様の割合が示されており、ウガンダでは調査対象となった年長の思春期の女の子（15～17歳）の13%、エチオピアでは調査対象となった年長の思春期の女の子（15～17歳）の22%が、少なくとも1人の子どもがいると報告している。10代の妊娠は、早すぎる結婚の原因であると同時に結果でもある。結婚前に妊娠した女の子は、早すぎる結婚を余儀なくされることが多い。逆に、早すぎる結婚が思春期の妊娠へと続くことも多い。

「結婚結納金を得る機会を、親たちは逃したくないのです」

難民コミュニティとホストコミュニティの両方において、思春期の女の子の保護者は、子どもの結婚の最も重大な要因として貧困を挙げており、難民コミュニティの保護者は、文化的規範の影響や思春期の子ども自身が結婚したがることにも言及している。ほとんどの保護者は、女の子が学校に通い続けるための手段があれば支援すると答えたが、学費が払えないこと、年長の未婚の女の子に対するコミュニティからのスティグマ、遅い年齢で結婚すると出産する子どもの数が少なくなることへの懸念などから、結婚を遅らせることは困難であることも強調した。親たちはまた、結婚結納金をもらうために、家族が女の子を結婚させることもあると指摘した。保護者は、家事労働が大変であること、衣食のような基本的ニーズを満たすこともままならないことなど、一般的な貧困レベルにある多くの女の子が「厳しい生活」を強いられていることへの懸念を強調した。また、思春期の女の子にとって、10代の妊娠や出産がもたらす健康上のリスクが大きいことも認めている。

思春期の女の子と若い母親が特定した早すぎる結婚の危険因子

- 南スーダンにおける既存の文化的慣習としての早すぎる結婚
- 女の子は結婚のための「資産」であり、収入源や労働力とみなされるという事実
- 女の子の役割（妻、家事労働者、ケアワーカー）に対する文化的期待
- 家庭やコミュニティにおける女子教育の軽視
- 性暴力
- 10代の妊娠
- 教育を受けられないこと
- 親のアルコール依存など、虐待的な家庭環境
- 女の子自身の結婚願望
- 仲間によるネガティブな影響と、性行為や早すぎる結婚に対する同調圧力

思春期の女の子やユース女性が、早すぎる結婚を遅らせるのに役立つと考える保護要因

- 思春期の女の子たちが、大人になってから結婚することに前向きであること
- 教育を受けたりや生計を立てたりするための経済的手段
- 望まない妊娠を防ぐ方法を知ること
- 仲間によるポジティブな影響
- 協力的な親子関係
- 親が女子教育を重視すること
- 虐待などのない、安全で保護的な家庭環境
- 男性家族が教育を重視し、女の子に早すぎる結婚を迫らないこと
- 女子教育や早すぎる結婚防止について親に助言できる女性教師や地域のリーダーなど、コミュニティの模範となる存在
- 教育や早すぎる結婚を遅らせることの重要性をコミュニティが認識すること

早すぎる結婚のリスクが最も高い女の子たち

- 不就学の女の子
- 家族から引き離された女の子や孤児
- 性暴力のサバイバー
- 極度の貧困家庭の女の子
- 妊娠中の女の子と若い母親

調査結果2：既婚の女の子と若い母親たちは、多くのリスクに直面している

既婚の女の子や若い母親たちは、複数の複合的なリスクを経験する。結婚したり、出産したりすると、思春期の女の子の生活は一変する。ほとんどの女の子は、妊娠、家事労働の重さ、あるいは経済的事情のために、中途退学する。

夫や義理の両親と同居している既婚の女の子は、意思決定権がなく、コミュニティの主導権から排除されていると述べている。夫や義理の家族から暴力、虐待、ネグレクト、搾取を受けたと報告する女の子もいる。思春期の女の子の保護者は、思春期で既婚の女の子にかかる家事労働の負担の大きさを認識しており、これを重要な懸念事項として強調している。

若い母親は、年齢が若いこと自体が問題だと思っている。子どもや家庭の世話という重荷を背負う一方で、「適切な決断を下す」ための経験、情報、社会的・経済的支援が自身にはないと感じている。思春期の母親の多くは、他者、特に夫や義理の家族に完全に依存しており、人生における様々な機会が与えられないと報告している。彼女たちはコミュニティの他の女の子とは違うと感じ、若い母親であることで汚名を着せられていると感じている。地域の大人たちから見下されていると感じている人もいる。

> 「若い母親であることは大変なことです。私たちは重い責任を背負っています。それなのに私たちには物事を決める自由がありません」

若い母親たちは、成人期を迎えてもなお、複合的なリスクに直面し続けている。24歳になるまでに、ほとんどの女性が2人以上の子どもを産んでいる。しかし、ユース女性たちは、「結婚が早すぎ、適切な指導や支援なしに行われる」ため、早すぎる結婚の多くが離婚や、女の子やユース女性の放置につながると説明している。南スーダンからの避難民の女の子は、夫が南スーダンに戻ると、多くの女の子とその子どもたちが見捨てられると説明している。ウガンダのホストコミュニティにいる若い母親たちは、離婚や別居の主な理由として、夫からの暴力、虐待、アルコール中毒を挙げている。エチオピアとウガンダで思春期の女の子や、片親や暴力のサバイバーである若い母親たちが、家族やコミュニティの中で偏見や差別に直面していると女の子は報告している。

既婚の女の子や若い母親は、複数の複合的なリスクに直面している

- 社会的孤立
- 自由の欠如
- 貧困と他者への高い経済的依存
- 教育、医療、経済的資源へのアクセスの欠如
- 家庭内暴力を含むGBV
- 離婚、放置、離別
- スティグマと差別

調査結果3：思春期の女の子と若い母親は、教育を受け、働きたい

学ぶことと収入を得ることは、すべての思春期の女の子と若い母親にとって最優先事項である。だが現実には、ほとんどの思春期の女の子は、16歳前後で中途退学している。中途退学の2つの主な原因として早すぎる結婚と10代の妊娠が挙げられているが、それとは別に、思春期の女の子は、親や夫、義理の家族が女子教育に価値を見いださなかったり、他の事の後回しにしたり、家族に経済的な余裕がない場合に、中途退学という結果になりやすいことも強調している。また、生理用品がないことや、学校に安全で清潔なトイレがないことが、就学や学業修了の障害になっていることも強調された。一部の女の子は、いじめ、教師による生徒への不適切な扱い、教室の人混みなどの要因によって、学校環境が女の子にとって危険に感じられることを強調した。

エチオピアでもウガンダでも、年長の思春期の女の子や若い母親は、特に夫や義理の家族、その他の家族からの支援なしに子どもの世話をしている場合、職業スキルを学び、収入を得たいと強く望んでいる。彼女たちは、洋服の仕立てや理髪、庭仕事や自分の土地での農業による収入に興味を示している。思春期の女の子の保護者もまた、（年長の）思春期の女の子や自分にとっての優先事項として、教育と収入を得るための活動を挙げている。

エチオピアでもウガンダでも、思春期の女の子は収入を得る可能性が限られていると述べた。既婚の女の子の中には、夫が働くことを許してくれないと報告する者もいれば、夫や他の家族に収入を取り上げられると報告する者もいる。難民コミュニティの女の子は出身地にアクセスできず、それが合法的に雇用される際の障壁となる。女の子によると、経済的な困窮は、最悪の形態の児童労働や性的搾取を含む搾取的労働のリスクを高める可能性がある。

「庭いじりをしてたくさんの作物を育てています。配給物資は売って食べ物を購入しているのですが、食生活を変えてお金を貯めたい。」

若い母親は、経済的資源を利用する上で複数の障壁に直面している。

- 小規模事業を立ち上げるための土地やその他の経済的資源へのアクセスがないこと
- コミュニティでの有給雇用の機会が限られていること
- ホストコミュニティの従来の仕事における腐敗と搾取（難民に影響が大きい）
- パートナー/夫が女性パートナーの就労を拒否すること
- 夫や他の家族が収入を奪うこと
- 健康不安と食料不安（飢饉）により、女の子の労働能力が制限されていること

調査結果4：若い母親は自分と子どもの健康を心配している

エチオピアとウガンダでは、難民コミュニティの思春期の女の子と若い母親が、より多くの健康不安を抱えていると報告された（調査者のそれぞれ10%と21%）。一方、ホストコミュニティ側では、ほとんどそのような報告はなかった。健康上の問題には、慢性的な病気、聴覚や視覚の問題（主に思春期の女の子が報告）、移動能力の問題（主に思春期の男の子が報告）などがあった。

協議の中で、若い母親は、自分と子どものために医療機関を利用することが非常に困難であると報告した。エチオピアでもウガンダでも、女の子は自分と幼い子どもたちにとっての、医療サービスにおける主要な欠落を特定した。

「保健所は遠い。お金がなければ行けません。」

思春期の女の子を持つ保護者は、医療サービスへのアクセスが限られていることについて、このような懸念を共有していた。更に親は、子どもが病気になったときや医療が必要なときに受診できないのは、家族にとって問題だと感じていた。

思春期の女の子と若い母親たちは、医療とSRHRサービスに対して、以下のような障壁があると認識している。

- SRH、望まない妊娠の防止、家族計画に関する情報や助言の欠如
- サービスを受けたり薬を買ったりする経済的手段の欠如
- 医療サービスまでの距離が長いこと
- 医療サービス拠点の医療スタッフの不足や、女性の医療スタッフの不在
- 女の子やユース女性に対する専門的な診察、助言、投薬の欠如
- 性暴力・GBVのサバイバーに対する偏見と差別

10～14歳の思春期の女の子は、月経衛生管理の情報や生理用品の入手が重要であり、それは特に通学を続けるのに役立つと述べた。15～17歳の思春期の女の子も、SRHに関する情報の欠如が望まない妊娠の主な危険因子であることを強調した。

思春期の女の子と若い母親たちの優先事項

思春期の女の子や若い母親たちは、自分に何が必要かを一番よく知っている。彼女たちは、自分と子どもの明確な未来像を持っている。しかし、協議によると、彼女たちは目標を実現するために必要な支援を受けていない。ジェンダー不平等は、女の子の生活のあらゆる側面に影響を与え続けている。彼女たちは疎外され続け、教育、暴力からの保護、医療、経済的機会など、基本的な人道的ニーズにアクセスできていない。

このような課題があるにもかかわらず、ウガンダとエチオピアの思春期の女の子は、何を変えるべきかを明確に認識している。彼女たちは、こうした変化を実現するために人道的アクターやサービス提供者がとるべき具体的な行動を特定した。協議の中で、彼女たちは以下の行動を提言した。

1. 教育、仕事、健康と保護を維持するための支援

- 新しいスキルを身につけ、安全を保ち、SRHを促進する情報や、私たちの求めるその他のトピックに関する情報を提供すること。
- 思春期の若者のための集まりを企画し、自分を大切にする方法について話をすること。
- 思春期の女の子が1対1やグループでのカウンセリングを受けられるようにすること。

「子どもを教育するために学校に行きたいです」

- 既婚の女の子や若い母親がパートナーと健全な関係を築けるよう支援し、子育て支援を行うこと。
- より身近な場所で質の高い医療サービスを受けられるようにすること。



- 私たちが住んでいる場所の近くで、学校やその他の学習機会を得られるようにすること。
- 思春期の女の子やユース女性に月経管理情報と生理用品を提供すること。
- 年長の思春期の女の子や若い母親に、裁縫、美容院、庭仕事や自分の土地での農業など、職業訓練や収入を得る機会を提供すること。

2. 家族およびコミュニティとの関わり

- 女の子と男の子を同等に扱い、女の子をより大切にし、女子教育に投資するよう親に働きかけること。
- 思春期の若者の保護者を支援するための家族会を開催し、思春期の若者を支援する方法について助言を受けたり、家庭内での暴力、虐待、アルコール/薬物乱用などの保護上の懸念に対処したり、早すぎる結婚に対処したりすること。

「母親たちは私たちをサポートしてくれます。彼女たちは親としての経験があるので。」

- 家族の生計と経済的資産を支援し、(若い)保護者、特にシングルマザーが子どもを養育する手段を持てるようにすること。
- 母親やその他の女性世話人、年配の教師や女性グループと協力して、女の子の権利を推進し、早すぎる結婚の問題に取り組むこと。支援があれば、こうしたコミュニティレベルの女性のゲートキーパーは、コミュニティに住む親に影響を与える重要な役割となりうる。

「夫がお酒を飲んでいるとき、私は教会に行って、教会のリーダーに相談します;彼らは夫に責任を持った男性になるよう助言してくれます。」

- 教会指導者、コミュニティリーダー、男性家族(兄弟、父親、夫など)など、地元の有力者と協力し、女の子、特に結婚している女の子や若い母親の状況に対する支援を強化し、認識を高めること。
- 思春期の若者が夜間に外出しないよう、また女の子が暴力から守られるよう、コミュニティリーダーと協力すること。

3. サービス提供の改善

- あらゆる健康上の問題に対して、保健センターや病院へのアクセスを提供し、安全なサービスを提供すること。
- コミュニティリーダー、年配の女性教師、警察に、懸案事項を報告するための安全な連絡手段を提供すること。
- 思春期の若者に奨学金を提供する際に、教師やその他の関係者の協力を促すこと。

「集会に出席するために仕事を後回しにすると、家族の石鹸を買えるはずだったわずかなお金を得られなくなってしまうのです。」

- コミュニティで最もリスクの高い思春期の女の子に手を差し伸べること。
- 思春期の女の子や若い母親がプログラムに参加することで、収入や仕事が得られなくなる場合には、その補償をすること。

優先事項を実践する:
女の子中心のプログラム

思春期の女の子と若い母親たちとの協議は、思春期の女の子とともに/のための3年間の多部門プロジェクト（2019～2022年）の設計に反映された。

思春期の女の子と共有された方針はプロジェクト全体のゴールに反映された。**思春期の女の子（10～19歳）と若い母親（14～24歳）が、自身の権利を実現し、早すぎる結婚から守られる機会を確保することである。**

思春期の女の子と若い母親が確認したさまざまなレベルでの変化は、より広範な3つのプロジェクト目標の策定に役立った。

1. 思春期の女の子と若い母親たちが、**生活技能、情報、サービスへのアクセスによって能力を持ち**、参加したり指導する立場になる機会も平等に与えられること。
2. 思春期の女の子と若い母親たちが、ニーズが満たされ、平等な権利と機会を享受できるような、**安全で支援的な家庭やコミュニティ**で暮らすこと。
3. 思春期の若者が、生存と幸福を促進するための**サービス**を適宜利用できること。

最後に、思春期の女の子のニーズ、関心、優先事項、そして関わるべき人々に関する具体的なアイディアをもとに、思春期の女の子を中心としたさまざまな活動が選択された。それは子どもの保護、SRHRや経済的エンパワーメントの介入にまで渡るものである。このプロジェクトは、思春期の女の子と若い母親たちとともに/のために設計されているが、思春期の男の子やユース男性も対象としている。



女の子中心の協議とプログラム設計から学んだ教訓

協議とプロジェクト設計プロセスは、2019年と2020年に行われたプランの新しい「思春期プログラミングツールキット」の試験的な導入の一環であり、以下のようなポイントが確認された。

1. **思春期の女の子のニーズと優先事項を理解するために、思春期の女の子と協議する。**思春期の女の子、特に既婚/若い母親/妊娠中/危険にさらされている女の子は、協議の場を設けないと見過ごされやすい独特のリスクに直面している。思春期の女の子が直接参加することで、保護者、コミュニティの代表者といった大人と協議するだけよりも、彼女たちのニーズをより正確かつ包括的に把握することができる。

> 「学校内外で、女の子はさまざまな課題に直面します。協議実習では、障害のある人たちと一緒に働く方法を学びました。この実習で自信がついたので、他の人、特に同世代の人たちにも声をかけることができるようになりました。仲間に助言することを学びました。」
>
> – 思春期の女の子、ボロリ難民居住区、ウガンダ

2. **プログラム設計に思春期の女の子と若い母親たちを参加させる。**それが可能で安全である場合は、思春期の女の子を積極的にプログラム設計に参加させ、彼女たちに特有の絡み合う危険因子に対処し、保護因子が土台となるようにする。若い母親たちや危険にさらされている他の思春期の女の子のグループは、自身が何を必要としているのか、どのように関与することができるのか、またどのように関与したいのか、そして他に誰がプログラムの成功を支援できるのかを最もよく知っている。

3. **協議やプログラム設計の際に、女の子中心の参加型ツールを使用する。**思春期の女の子は、ビジョニング活動が、自身と子どもの将来について考えるきっかけとなり、とても興味深かったと強調した。この活動によって、彼女たちが当面のニーズだけでなく、長期的な優先事項や願望についても打ち明けるようになり、ポジティブな変化をするための行動へと向かう「運転席」に彼女たちを座らせた。

4. **思春期の女の子を調査者として訓練する。**ウガンダでは、思春期の女の子とコミュニティメンターが、ビジョニングのファシリテーターとして訓練された。女の子たちは、それが自分にとって力になる経験であり、仲間のために安全で信頼できる環境を作るのに役立ったと報告した。思春期の女の子は互いに話し合うことで、日常生活上の重要な問題についての考えを共有し、自分たちの可能性を実現する上での障壁について説得力のある証拠を提示した。



「思春期の女の子や若い母親たちがさらされているリスクや懸念のいくつかを知ることができました。人前や集団の中で話したり、自分を表現したりすることに、とても力をもらい、自信が持てるようになりました。(…)以前は人を恐れていました。今まで使ったことのなかったタブレットやKobo collectの使い方も学びました。また、カウンセリングのスキルや思春期の若者の指導も学びました。」

–思春期の女の子、パギリニャ難民居住区、ウガンダ

5. **思春期の女の子との継続的で有意義な関わりの場を設ける。**思春期の女の子の参加と関与は、プログラムサイクル全体を通して一貫していなければならず、協議の段階だけに限定してはならない。思春期の女の子と若い母親たちは強力な変革の担い手であり、人道支援者は、彼女たちの声を高め、広げていくための行動を継続的に見つけていくべきである。


ONE
LOVE

巻末資料

i. UN OCHA (2021). Humanitarian Needs Overview South Sudan.
ii. UN OCHA (2021). Humanitarian Needs Overview South Sudan; World Bank (2020). South Sudan Economic Update, February 2020.
iii. UN OCHA (2021). Humanitarian Needs Overview South Sudan.
iv. Plan International (2018). Adolescent Girls in Crisis: Voices from South Sudan.
v. UN OCHA (2021). Humanitarian Needs Overview South Sudan.
vi. UNHCR website [accessed on 19 February 2021].
vii. Ibid.
viii. UNHCR website [accessed on 19 February 2021].
ix. Ibid.
x. プランの避難生活における女の子のためのCentre of Excellenceは、避難生活における女の子の権利のために、エビデンスに基づくプログラム、組織的学習、感化を促進することを目的としている。
xi. Plan International (2018). Adolescent Girls in Crisis: Voices from South Sudan.
xii. UNICEF (2018). Progress for Every Child in the SDG era.



Plan International Global Hub Dukes Court, Block A, Duke Street, Woking, Surrey GU21 5BH United Kingdom Tel: (+44)1483 755 155 To learn more about our actions for children, visit www.plan-international.org